

# はたらく女性のフロア通信

発行日:2020年9月25日

NO. 43・44合併号



はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町8-25-203 本間重子気付

## はたらく女性のフロアかながわ第12回総会から



今年は、2月に横浜港に入港したクルーズ船での新型コロナウイルス感染によるクラスターの発生を皮きりに、日本でも感染が拡大。4月7日に緊急事態宣言が発令され、2月に予定していた「ジェンダー統計パートII」の公開学習会も中止せざるを得ない状況の中、思うような活動ができませんでした。やっと、8月13日に第12回総会をかながわ県民センター701ミーティングルームで開催することができました。参加者は9人。今回、学習会というより、会員それぞれが関心を持つ課題を報告し合い意見交換を行いました。

### ★年金削減問題 (村田泰子さんから)

年金は少し上がったりにしているが、介護保険が年金から引かれ、手取りは減っている。今年は年金改正の年、10月に国会に届けようと「年金引き下げ反対」署名にとりくんでいるが、コロナで署名ができない。また、サークル活動もできないなど、年金者組合の活動が難しい。「年金裁判」も神奈川の原告は255人(全国で5300人)だが、すでに亡くなった方が10人おり、裁判も厳しい状況がある。国は年金が低いにも関わらず、生活保護の受給を渋っている。年金組合は60%が女性、女性が声を上げないといけない。

### ★種子法と種苗法 (小島八重子さんから)

種子法は米や麦などの主要作物の種を国が責任をもって安定生産と普及をする法律だが、2018年廃止された。しかし、自治体での責任で種を守ることを盛り込んだ条例が現在21道県で制定されている。また、「種苗法改定案」は先の国会で国民の反対の声があがり、現在継続審議。これまで認められてきた農家の自家増殖を一律に禁止するもので、農家経営にとっては高価な種を買わなければならない、重い負担となる。「登録品種」以外の「一般品種」は自家増殖可能というが、現在396種が「登録品種」となっており、ゆくゆくは全種目が禁止へとなりかねない。廃案にするしかない。

### ★横浜にカジノはいらない

(佐久間由美子さんから)

コロナ禍でマカオやラスベガスのカジノは80%の減収で再開が厳しい状況。米国のラスベガスサンズは横浜での実施を断念。にもかかわらず、林市長はギブアップしていない。林市長はカジノ誘致を「税収をあげるため」とするが、矛盾している。国に先駆けて中止は言えないのではないかと。現在、市民側は、「カジノの是非を問う住民投票条例制定署名」を9月4日からスタートしてとりくんでいる。

### ★老人福祉施設のいま

(中嶋ひとみさんから)

コロナで困っているが、コロナ対策はない。差し入れや面会も禁止している。1回もPCR検査していないので、無症状者はわからない。マスクはあるが、消毒用アルコールがない。人員がギリギリで週2回のお風呂の準備ができない。千代田区のように3か月ごとにPCR検査の実施をしてほしい。

### ★報告を聞き意見交換

(本間さん)2歳下の弟のケアで疲れている。6人姉弟間での老々介護。人生100歳なんてとんでもない。社会的に守る必要がある。

(君嶋さん)コロナ感染の2月からは嵐のよう。社協の融資も昨年度1年間109件が、3月以降4100件に増大。「子どもに食べさせるものがない」など、コロナで貧困の実態が見えてきた。

「困ったときは共産党」とSNSで広がった。休業協力金も妊婦の休暇も認めるなど、声を上げれば事態が変わることを実感した。

(報告:小島八重子)



桑の実や古老伝える絹の道  
笑顔しか浮かばぬ友やかき氷  
松尾佐知子  
本山文子

## 1960年の「ジェンダー平等」

～あれから60年

本間 重子（会員）

今から60年前、安保闘争の翌年横浜市従業員労働組合（横浜市従）は青年婦人部から分離独立して、婦人部を結成した。結成準備に向けた1年近い活動の中で、忘れられないひとコマの記憶が今も残っている。

当時の市従委員長に「職場から男女差別をなくし、男女平等を実現したいんです」と20代前半の私は訴えた。温厚でリベラルな委員長とこんな話をしたと思う。「よく家事育児は婦人の天職というが、社会で職業として通っているのはコックさんにしても男性が当たり前、婦人が多い職種の看護婦・保母・学校給食の調理員さんたちも待遇に差別がある。その原因はどこにあるのか、そういうことを考えて運動してほしい」とこんなやりとりだったと思う。この指摘は今でいえば、「ジェンダー平等」の本質に関わる話だったと思う。

今年が日本が女性差別撤廃条約を批准してから35年が経った。1979年国連でこの「あらゆる形態の差別を撤廃するため」の必要な措置をとるために、各国政府に取り組みを義務付けた画期的な条約で、私はそう遠くない将来に男女平等が大きく前進することを期待して胸が膨らむのを覚えた。

## WWFK第12回定期総会から

第12回総会が8月13日かながわ県民センター710ミーティングルームで開催され、コロナ禍にもかかわらず9人の参加がありました。

冒頭の開会のあいさつで伍淑子さんは、「戦時中女性は国家総動員で工場などに駆り出され、戦争が終わり男たちが帰ってくると、職場から追い出された。歴史に残す必要がある。いま、男女共同参画推進法の第5次改定の素案が出されている。パブコメを出していこう」と話しました。

総会では、議案のすべてが承認されました。次のような意見が出されました。

○WWFKの存在が知られていない。有名な講師を呼んで学習会ができればよいが。

○神奈川労連の労働相談センターと連携して生活支援のようなものできないか。コロナ禍で労働者の雇止めや内定取り消しなどが多くなっているが、労働組合がそれをなかなか受け止められず運動していくのが難しい。韓国のように争議解決を請け負うようにはなっていない。

○会報を送付するときに、2020年度の会費を納付するよう一筆書いたものをいれてはどうか。

その後同条約の実効性を強化するため選択議定書（「個人通報制度」と「調査制度」を含む）が99年に採択されたが、日本はNGOをはじめ多くの女性たちのアクションの広がりにもかかわらず政府の動きは鈍い。国会の議論を通じて、これまで障害とされてきた「実効性、有効性への疑問」や「独立性との関係」はクリアされてきた。

参議院外交防衛委員会では2001年から16年まで、18回にわたり採択されたにもかかわらず、政府内の一部異論により採択は保留となってしまっている。女性の人権を国際基準にするために1日も早く採択してほしい。

このような経過の中で日本は「ジェンダーギャップ指数」（GGGI）は121位まで下がっている。菅内閣はこれをどう捉えるのだろうか。

表：ジェンダーギャップ指数

	総合		経済		
			労働力率	賃金	管理職比率
アイスランド	1(0.877)	2(0.839)	17(0.945)	1(0.846)	21(0.708)
スウェーデン	4(0.820)	16(0.790)	14(0.955)	50(0.694)	35(0.628)
ドイツ	10(0.787)	48(0.723)	38(0.898)	68(0.671)	89(0.416)
フランス	15(0.781)	65(0.691)	45(0.891)	127(0.528)	59(0.526)
イギリス	21(0.767)	58(0.704)	49(0.886)	76(0.642)	47(0.569)
アメリカ	53(0.724)	26(0.756)	61(0.860)	47(0.699)	22(0.688)
日本	121(0.652)	115(0.598)	79(0.814)	67(0.672)	131(0.174)

注：数字は調査対象の153カ国中の順位。（ ）内の数字はスコア。

出所：World Economic Forum (2019), Global Gender Gap Report 2020.

○JAL争議の神奈川支援する会の集会有る（8月22日終了）。

最後に、村田泰子さんは、「コロナ禍で年金者も働いている。親はテレワーク、子ども休校ですーと家にいる状態。いまが女性のがんばりどころ」とまとめました。

### 【2019年度の事務局体制】

代表 小島八重子

事務局 池田資子、佐久間由美子(会計)、

伍淑子、本間重子、中嶋ひとみ、村田泰子

会計監査 白井洸子

編集委員 池田、本間、小島

### 神奈川自治体学校・女性分科会

とき：2020年11月1日(日)

13時30分～16時30分

ところ：横浜市健康福祉センター

参加費：全体会から参加は1000円

分科会のみ参加は700円

内容：「コロナ禍とジェンダー

…自治体の役割を考える…」

★講演 太田伊早子氏(弁護士)

★現場報告 ★意見交換

## 君嶋ちか子がゆく②

### …神奈川県議会報告

#### コロナ禍と米軍

米軍基地の存在は、県民に多くの困難を強いてきましたが、新型コロナウイルス感染症に関わっても米軍の特権行使が際立っています。9月議会でこの点を質しました。

米国は、感染者600万人、死者18万5千人を超え、世界一の感染国であり、米国からの入国は現在禁止ですが、米軍関係者は例外です。

そのため、神奈川県内だけでも深刻な事態が続いています。

#### ▼続く米軍の横暴

結果的には回避されましたが、3月下旬、千人以上のクラスターが発生した原子力空母から、陽性者含む3千人が、厚木と沖縄の基地に秘密裡に移送される計画でした。

3月30日、米国防総省は、各基地の感染状況非公表の方針を発表。7月には、羽田空港から入国した米軍関係者が、検査結果が出る前に横須賀の宿泊施設に滞在、その後陽性が判明。

8月末、横須賀基地を母港とする原子力空母の乗員が、感染し下船。これらの事態に対し、逗子市議会が、感染状況の公表を国に求める意見書を可決し、共産党県議団も、南関東防衛局・知事な



どに、適正な管理を求め申し入れを行いました。

沖縄県知事が直接交渉により感染者数公表を可能としたこともあり、米軍は、ようやく7月には現存感染者数のみ公表するようになりました。

9月4日現在、米軍感染者数は、横須賀41人、座間4人ですが、新規感染者数、累積感染者数などはわかりません。

県内の公表内容相当を米軍に求めるよう質しましたが、知事は「これ以上求める考えはない」と答弁。

#### ▼検疫法と感染症法を適用せよ

検疫法も感染症法も適用されず、米軍関係者については米軍が検疫を実施し、感染者が出てても日本の保健所が調べることができません。日米地位協定に検疫・感染症に関する定めがなく、日米合同委員会で、「米軍実施」を決めているからです。

ドイツでは、「伝染病の予防及び駆除については、ドイツの法規及び手続きが適用される」と、北大西洋条約機構軍地位協定に伴うボン補足協定で明記しています。

検疫や感染予防において、国内法の適用を可能とする地位協定改定を米国と政府に求めるよう質したところ「国内法適用を求めて行く」ところはきっぱり。

## 横浜市の中学校教科書

### 「育鵬社不採択」に

佐久間由美子(会員)

8月4日、横浜市教育委員会が開催され、来年度から4年間使用する中学校の教科書を採択しました。これまで11年間使用してきた侵略戦争肯定・美化の育鵬社版教科書を今回は不採択としました。6人の委員の無記名投票で、歴史は4対2で帝国書院、公民は5対1で東京書籍が採択されました。幅広い市民を結集した運動が実を結びました。

審議では、教科書取り扱い審議会の答申を尊重し、6人の委員が教科書名を上げ、「多様性の尊重」など具体的に発言、昨年以上に自由に活発に審議が進められたと感じました。しかし、採決に当たっては、従来通り無記名投票とするなど、不透明な部分を残しています。

今回の教育委員会は傍聴定員を従来通り20人に限定、約300人の申し込みがありました。また、コロナ対策を理由に、昨年まで傍聴の抽選に外れ

た市民のために用意していた別会場での中継は行なわず、オンライン中継を実施、資料は市のホームページに掲載されました。

「横浜教科書採択連絡会」が用意した波止場会館でオンライン中継を視聴、「育鵬社不採択」の瞬間、2度にわたって拍手と歓声が会場に響きました。

報告集会では、傍聴した市民や、連絡会スタッフから「11年間、血のにじむようなたたかいたった。頑張った成果」「展示会でのアンケートが公表されたのは前進」「勝利が共有できてうれしかった」などと喜びが語られました。

大きく前進した横浜の教科書採択ですが、まだまだ他都市と比べて遅れています。学校現場・教師の意見を反映すること、無記名投票ではなく挙手や記名投票にすること、傍聴定員を増やすことなど、より民主的に開かれた採択にすることが求められています。



集会のようす

## 映画が好き 「はちどり」

池田 資子(会員)



世界各国の映画祭で50冠を超える受賞をした話題作である。しかし、感想を聞かれると、話すのが難しい。

1994年のソウル。88年にオリンピックを開催して、韓国は経済発展を続けている。ウニは14歳の少女。両親、姉、兄と団地に暮らしている。ウニは学校に馴染めず、自分が好きになれず悩んでいる。それは、キム・ボラ監督の少女時代を反映している。

トランポリンをしたり、ディスコへ行ったり、ある時は万引きをする。ボーイフレンドや後輩の女子との関係もうまく行かない等。父親は威張っている。ソウル大学入学を期待されて潰れそうな兄、父に叱られてばかりの姉、ウニは時々兄に殴られるが、黙って我慢している。母は自分を殺し

て生きている感じがする。家族揃って食事をするシーンが何度もあるが、団欒とは縁遠い。家族の心はバラバラ。伯父の突然の死、ウニの手術によって家族に生じる動揺…

韓国は新しい国に向けて動き出している。ウニの悩みなど問題ではないかもしれないが、思春期の少女には日常生活が全て。学校と家族、その間で揺れ動く日々を追い続けるこの映画は、同じく話題になった「パラサイト 半地下の家族」とは全く趣が異なる静かな作品である。

大きな事件が起こる。金日成の死亡、ソンス大橋の崩壊事故。ウニに「自分を好きになるには時間がかかる」「暴力に屈せず自分の人生を生きる」「このスケッチブックに未来を描け」と語ってくれた塾の教師は、ソンス大橋事故の犠牲になってしまう。

自宅で魂を無くしてぼんやりとしていたウニが、突然飛びはね踊り出しそして行動する。今まで前向きに何かをする事が無かったが、夜明け、姉たちと事故現場を見に行くウニ。暗闇の中に壊れた橋がある。悲しみを越え進もうとする強い意志がウニの顔に見えた。小さいが力強く羽ばたく「はちどり」の様に。

## 第35回女性労働セミナー ★オンラインに参加して 小島八重子(会員)

9月20日、第35回女性労働セミナー★オンライン(女性労働問題研究会主催)が開催されました。通常なら一堂に会してのセミナーですが、コロナ禍の影響によりオンラインで行われました。テーマは、「新型コロナと女性フリーランス〈雇われない働き方〉」。「フリーランス」とは、自分の得意とするスキルを、社会的に独立したかたちで提供し、報酬を得るといふ「働き方」および「こうした働き方をする人」とあります。組織に束縛されずに自由な働き方は一見うらやましいと思いましたが、今回のセミナーでは、とりわけコロナ禍でのフリーランスの劣悪な労働実態が見えてきました。

杉村和美さん(出版ネッツ組合員・フリー編集者)は、出版関係では「予定した企画が延期や取りやめになり収入が途絶えた」「持続給付金や小学校休業等対応助成金も条件合わなかった」などセーフティネットの不備を指摘。労働者としての判断基準の拡大や法整備の拡充をと、まとめました。

森崎めぐみさん(協同組合日本俳優連合・国際事業部長)は、フリーランス俳優の実態について

日本俳優連の新型コロナ調査を紹介。「4月からの収入が半減または無収入が6割」「給付金などの支援策を知らないが

4割」などが明らかに。また、労災認定がされないことやセクハラなどのハラスメントが横行など、衝撃的な報告がありました。

金井郁さん(埼玉大学教員)は、生命保険営業職のジェンダー問題について、歩合制であること、ケア時間の調整が可能なことにより女性が多く携わってきましたが、対面仕事のコロナ感染のリスクと低収入リスクにさらされているとの報告がありました。

竹信三恵子さん(ジャーナリスト)は、女性フリーランスの労働権について、コロナ禍でテレワークの推進によりよりセーフティネットの脆弱性が露呈、女性はワークライフバランスのために短時間傾向で収入も400万円未満が多い、経営者というより労働性が高い、「労働基本権」をフリーランスで保障していくことが重要と強調しました。

4人の報告を聞き、性別役割分業を理由に女性たちを家庭内で働かせることで、低賃金不安定労働に追いこんでいく政府・財界の意図が隠れていることを感じました。

